

学会録事

1. 海産外来種研究委員会

第1回海産外来種研究委員会議が、2009年10月16日に北海道大学水産学部で開催された。

本委員会は、海産外来種問題に対処するために必要なデータベース等の整備に際して生じ得る問題点（情報収集、生物種の同定の正確性の確保）に対応するために、情報交換・共同活動をおこなうことを目的に、日本ベントス学会、日本プランクトン学会、日本藻類学会が共同して立ち上げた組織である。本委員会の第1回会議において、以下のことが確認された。(1) 委員派遣に必要な経費は各学会で責任をもつ。(2) 2011年3月までに海産外来種の最近の情報を収集整理し、適時公表する。外来種の認定基準についても検討する。情報源として各学会で協力者を募り、同時に研究情報、マスコミ情報も整理する。また、会員には各学会のML等により成果発表前のパブリックコメントを求める。(3) 参加学会の拡大は必要あるいは要請に応じて検討するが、本研究委員会ならびに各所属学会の承認を得て進める。(4) 参加学会の和文誌に、本研究会の活動成果であることを明記した上で、活動した派遣委員あるいは協力者の実名で発表する。筆頭者が発表会誌の所属者でないことで生じる問題については、各学会の和文誌編集委員会の見解を求めたうえで対応する。また、各学会のホームページの活用も計る。さらにシンポジウムや研究集会を必要に応じて開催する。(5) 多くの国際機関あるいは国際的研究活動で情報提供や参画を求められているが、原則として得られた情報の有効活用として個人的に対応する。(6) 次年度までに活動内規を定める。(7) 本会活動に関係する外部研究資金の獲得に協力する。なお現時点では、当学会からは川井浩史前会長、堀口健雄現会長が参加しているが、今後必要に応じてメンバーの拡大を計りたい。

2. 日本分類学会連合

日本分類学会連合第9回総会および第9回シンポジウムが、2010年1月9日に国立科学博物館新宿分館で開催された。

<報告事項>

(1) 庶務：現在の加盟団体は25団体である。2009年度の活動；第20回役員会の開催(1/9)、第8回総会の開催(1/10)、第8回公開シンポジウム「分類学におけるDNA情報の活用」の開催(1/10)、東京大学海洋研究所への要望書の提出および琉球大学熱帯生物圏研究センターへの要望書の提出(3/19)、第21回役員会の開催(4/9)、藤原ナチュラルヒストリー振興財団第1回シンポジウム「ダーウィンの後輩たちは語る—ナチュラルヒストリーの魅力—」の後援(10/24)、地方分権改革推進委員会第3次勧告の博物館法見直しに対する反対声明の提出(11/30)、ワークショップ21世紀の生物

多様性研究「生物分布情報から探る生物多様性—観察情報の集積とその利用」の後援(12/14)。(2) ニュースレター：第15・16合併号を発行(11/30)。(3) ホームページ：第8回公開シンポジウム要旨、第9回シンポジウムプログラム、連合の活動報告、加盟学会の大会、シンポジウム要領などを掲載。(4) データベース：拡充を継続中。(5) メーリングリスト：Taxa会員数908名、1年間に44名増加。(6) 国際動物命名規約第4版日本語版[追補]のPDFを連合ホームページに掲載。(7) 国際動物命名規約修正案と意見募集への対応。(8) 生物多様性(CBD)条約の遺伝子資源へのアクセスと利益配分(ABS)の動向について。

<審議事項>

以下の事項について諮られ承認された。(1) 2010～2011年度役員選出：代表 伊藤元己、副代表 鶴崎展巨、庶務幹事 奥山雄大、会計幹事 長谷川和範、広報出版幹事 佐々木猛智(2010年度)、監査員 後藤哲雄(2009-2010年度)、監査員 細矢剛(2009-2010年度)。(2) 規約の改正(委員会関係)。(3) 2010年度広報出版委員会委員の選出。(4) 2009年度決算。(5) Consortium for the Barcode of LifeのMoCの改訂版へのサインアップ。(6) 2010年度事業計画：第9回公開シンポジウム「生物地理学の未来を考える」の開催(1/9)、COP10 PreConference(3/21～23)の共催、第10回公開シンポジウムの開催、ニュースレター17、18号、ホームページ、データベース。(7) 2010年度予算(2010年度の分担金は10,000円)。

【公開シンポジウム】

生物地理学の未来を考える

(1) 「淡水魚の分子系統地理の現状と今後の展開」渡辺勝敏(京大・理・動物生態)、(2) 「樹木と共に生きる菌類の生物地理学—生態学的アプローチによる展開」広瀬大(日大・薬)、(3) 「海洋生物の分布データベース—現状と可能性」田中克彦・藤倉克則・山本啓之・丸山正(JAMSTEC)、(4) 「琉球列島の特異な地史と生物地理」松岡廣繁(京大・理・地鉱)、(5) 「植物分類学者から見た生物地理」加藤雅啓(科博・植物)。

